

音のオアシス

を頼りに収束の日々。

音の暴力が問題になって
いる。拡声機、カラオケ、
ステレオ……。たまりかね
た岡山県では「暴騒音規制
条例」構想を打ち出した。

シリンドラーのツメが、く
しの歯をはじくもの。ツメ
を刻んだ直径四〇センチの円
盤が回転するもの。大きさこ
も小箱から二辺を越す大物
まで、集めたり六十余台。

警察に摘発をまかせて、懲
役刑も科す強硬手段だ。現
代のメカニズムが出す音
は、規制しなければあばれ
出す怪物になったのか。

「素敵な音を、少しでも
多くの人に」と、自宅を開
放し「オルゴールの小さな
博物館」の看板を掲げたの
が昨年五月。土・日曜日だ
け公開している。

そんな騒音の部

会生活の中で、心
なごむ音を求め続
けている人もい
る。東京・目白台
の護国寺近くに住



宣伝もしない
のに、常連もでき
た。近くの盲学校
の子供たちもよく
聴きにくる。じっ

む印刷会社経営、名村義人
さん(妻と夫婦は、十九世紀
の音、オルゴールに魅せら
れ)

と聴き入っていたある少年
がいった。「ボク、こんな
いい音を出す(シリンドラー)
ハりに刺されたい……」。

までつくってしまった。

きっかけは両親の外国旅
行土産にももらった小さなオ
ルゴール。可愛い音にひ

音の素暗らしさに思わず口
走った一言。夫婦は「公開
してよかった」と、心から
喜んだ。

かれたのは妻の嘉世子さ
ん。メカに興味を抱いたの
は義人さん。以来、専門書

街の小さな博物館。騒音
に囲まれた現代人のオアシ
スに育ちつつある。(輝)